

鹿児島大学教育学部特別支援教育教員養成課程1年

0714630012

有川日菜香

テーマ：与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか

私は与論島を活性化させるために必要なこと・ものは4つあると思います。

1つ目は産婦人科です。

与論島での集中講義の際に、「行政」について講義をしていただいた方が「与論島には産婦人科がない」と話していました。地元で産婦人科がないとなると、地元の女性は与論島外に行って子どもを産まなければならないし、与論島内で産むとしたら、あまり安心できないと思います。このような状況だと、女性はあまり子どもを産みたい、2人目・3人目を産みたいと思わなくなってくるのではないのでしょうか。実際に、近年与論島では子どもの数が減っているようです。与論島に1つでも産婦人科を作ることによって与論島の少子化の解消に少しでも役立つのではないのでしょうか。

2つ目は本・旅行雑誌を普及させることです。

鹿児島で与論島についての本を探した際に、本屋で検索したらいくつか出てきましたが、未入荷が多く、実際に店にあるのは2・3冊ほどでした。旅行雑誌では、屋久島のようにその島だけの旅行雑誌があるわけでもなく、島をまとめて紹介する旅行雑誌の中に1ページ分、与論島に関するページがある程度でした。鹿児島県内でさえこのような状況で、他の県の人には特に与論島についてあまり知らないのではないのでしょうか。(私は与論島に行く方法は船しかないと思っていたので、空港があるのを知り驚きました。) 百合が浜をはじめ、サザンクロスセンター、「映画めがね」の舞台となった海岸や、与論の城跡、地平線が360度見える丘など、与論島のことをもっと詳しく知ることができる本や旅行雑誌が必要だと思います。ここ3・4年からすると与論島への旅行客は増えているようですが、それ以前にはまだ及んでいません。与論島についての本が増えれば、興味を持つ人が増え、与論島がさらに賑やかになるのではないのでしょうか。

3つ目はイベント・ツアーです。

去年、今年と行われた「人生ゲーム・ヨロン」のようなイベントは子どもや若者は特に大好きです。「旅行するなら、何か面白そうなことをしているところに行きたい」と考え、旅行の目的地を吟味することもあります。島の小ささを有効活用し、島丸ごとをゲーム・イベントの会場にする、ということは与論島でしかできません。他のところではやってない、島丸ごとなんて想像つかないという人々の好奇心を与論島に向けさせることができます。ツアーは、与論島の観光地・穴場スポットをガイド付きで自転車やバスで巡る、というものがあって良いと思います。観光地を巡るときにただ自分たちで見ていくよりも、その場所に関する説明があった方がわかりやすいし、ガイドマップや本には載っていない新たな発見・知識を得ることができる可能性があるため、より与論島を楽しむことができると思います。

4つ目は農作物です。

私はあまり農作物について詳しくはないですが、台風被害の多い与論島で栽培するとして

鹿児島大学教育学部特別支援教育教員養成課程1年

0714630012

有川日菜香

ら何がいいか考えてみました。インターネット等で台風に強い（風雨に強い）作物を調べたところ、与論島ですでに栽培されているサトウキビやサトイモをはじめ、カボチャやサツマイモが出てきました。確かに根に実がなる作物の方が、地上に実がなる作物よりも台風等の被害が少なそうですし、台風が来る・来ないによってその年の収穫量が変わったりしないので、少しは与論島の農業の活性化に役立つのではないのでしょうか。

読んだ本のタイトル：宮本常一とあるいた昭和の日本①奄美沖縄

作者：田村善次郎・宮本千晴（監修）